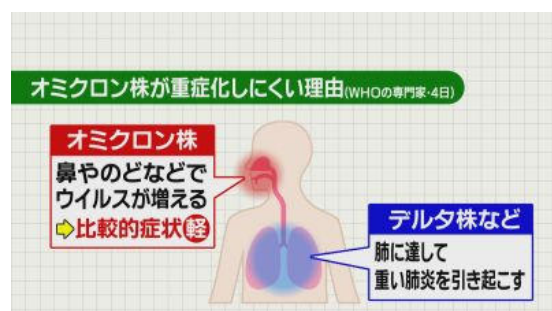


「新型コロナ禍」について

現在、巷では「新型コロナ禍」（オミクロン株）が猛威を振っている。
感染が判ると無症状でも家族は、10 日間の自宅待機。保育園・幼稚園も休園となるところがあるなど、社会的な影響も大きい。日本政府は、原則外国人の入国禁止策をとっている。
そろそろ、社会でも「コロナ禍」疲れ、というか「with corona」でもいいんじゃないの、という風潮が見えてきたと思うがどうだろうか。

2020 年の中国での「新型コロナ」発生以来、中東・欧米とその感染は拡大し、「パンデミック」の様相を呈してきた。米国では、すでに 83 万人が「コロナ禍」で亡くなっている。これが悲劇でなくて、何だろうか。わが日本では、政府に従順な国民が「手洗い」「マスク」「3密防止」「ワクチン接種」等が功を奏して、何とか社会活動を維持してきている。



現在は、昨年のデルタ株が勢いを失い、オミクロン株が猛威を振っている。幸いこのオミクロン株は、感染・発症しても、風邪に近い症状で 3 日間程で治る方が多いようだ。（勿論、高齢者や既往症のある弱者は、重篤化等気を付けなければならないのは当然）

医療崩壊危機に関しては、日本国内の医療制度の問題であることは、以前から指摘されている。すなわち「新型コロナ」は、第二類の指定感染症扱いであるため、一般の病院ではその対応が難しい。

日本では、感染拡大当初にタレントの志村けん氏、俳優の岡江さんがなくなって、国民に「新型コロナ」の恐怖を植え付けてしまった。日本では「コロナパニック」になったというのが現状だろう。

「新型コロナ」については、インフルエンザに近いといえどもその後遺症を検証すると、やはり別物の感じがあるし、むしろオミクロン株は風邪に近い感じがする。
すなわち、ウイルスがその共有体（動物や人間）を殺してしまえば、自らも滅んでしまう。ウイルス自体に意志があろうはずはないのだが、感染力が強いものは毒性弱いという一般的な特徴を持っているから不思議だ。

このウイルス騒動で製薬会社等は、大変な利益を得たことは事実だが、それを持って「ウイルス陰謀説」はどうかと思う。「新型コロナ」は、中国武漢の研究所から漏洩したという説が一番説得力があると思われる。それが、「一带一路」政策に参加していた国々を中心に、感染が広まった訳だ。それ以降は、「新型コロナ」ウイルス自体が増殖・変化を遂げながら現在に至る、ということだろうか。

自分は、ワクチン二回の接種を受けた。（二回目は、副作用で 2 日間寝込んだ）
しかし、3 回目は躊躇している。オミクロン株は、これまでのデルタ株とは「別物」のような気がしている。（イスラエルでは、3 回目でもブレイクスルーが起きて、4 回目とか）
あくまでも、接種を決めるのは自分自身であり、その結果の責任は当然に自身である。